

市民と都市社会基盤の接点 -シビックプライドの観点から-

伊藤 香織¹

¹ 東京理科大学 理工学部建築学科 (〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641)

E-mail:kaori@rs.tus.ac.jp

シビックプライド (civic pride) とは、「都市に対する市民の誇り」を表す言葉である。歴史的には、近代都市と市民社会の萌芽がうかがわれる 19 世紀に勃興したイギリス都市を体現する重要な概念となり、特に都市環境 (built environment) と結びつけられていたことが知られている。近代化へと向かう都市環境の機能価値だけでなく感性価値を表すものとも言えよう。その意味で、機能性の向上が追求されてきた近現代日本の都市環境、特に鉄道等の都市社会基盤が、今後どのように感性的に評価されるのかという議論への示唆を含むのではないだろうか。本発表では、シビックプライドの考え方の歴史的経緯、シビックプライドに対する国際的な認識と日本での認識を紹介したうえで、都市社会基盤とシビックプライドとの関係がどのように捉えられてきたかを考察する。

Key Words: civic pride, built environment, urban infrastructure, citizen

1. シビックプライドの概念とヴィクトリア都市

シビックプライド (civic pride) とは、「都市に対する市民の誇り」を表す言葉である。伊藤¹⁾は、シビックプライドが「自己決定」「文化アイデンティティ」「市民権」「所属」「コミュニティ精神」「シビック・ブースターリズム」などの概念と結びついていることを、Collins²⁾を参照して述べている。併せて、「自らの市民としての責務に対する個人の誇りの感覚」という Gastil and Xenos³⁾の定義も紹介している。したがって、シビックプライドというのは単なるまち自慢ではなく、都市と市民とのより深い結びつきから生じる感情であり、だからこそ都市の特長を自らの誇りと感じることができるのだと言える。

Hunt⁴⁾や Briggs⁵⁾によると、イギリスでは、19 世紀のヴィクトリア朝期に勃興した多くの地方都市で、シビックプライドが都市の規範になった。都市の主役として台頭してきた市民階級の商工業者は、その富と進歩的な考え方を背景に新たな都市づくりを支えていくことが自分たちの社会的ミッションであり美徳だと考えていた。「ヴィクトリア都市は、進歩、繁栄、自由の象徴として弁護されさらに賞賛されるようになった。… (略) … 19 世紀は「偉大な都市の時代」と謳われ、ヴィクトリア朝特有の倫理観であるシビックプライドの最初の芽が現れた」

⁴⁾と言われるように、シビックプライドは近代都市建設の熱気の中で生まれ、特に当時の進歩主義的で文化的な考え方が根底にあった。そのため、特に彼らのシビックプライドの象徴となり源泉となったのが、公共建築、文化施設、公園、鉄道、上下水道など、都市の新しい空間や社会基盤であったと言われる。

2. シビックプライドの源泉⁶⁾

シビックプライドは抽象的な情動ではなく、その都市やコミュニティのもつ何らかのもの・こと・場所などを拠り所にすることが多い。これをシビックプライドの源泉 (sources of civic pride) 呼ぶ。ヴィクトリア都市のシビックプライドの源泉が近代都市の新たな空間や社会基盤だったとすると、現代都市のシビックプライドの源泉はどのようなものになるのだろうか。

シビックプライドの源泉の近年の傾向を知るため、2000年～2017年に英語で発表された研究のうち、具体的なシビックプライドの源泉 (source of civic pride) の記述がある論文等から、記述されたシビックプライドの源泉の要素を整理した。ただし、歴史的な出来事を扱った研究や当該部分が引用部分である研究もあり、対象が必ずしも近年であるとは限らない。

表1にその結果を整理した。ここでは42の文献を取り

上げている。建築、施設、オープンスペース、社会基盤など都市環境がシビックプライドの源泉として扱われることは多い。また、スポーツに関わる要素も多く見られ、特にアメリカでその傾向が強いことがわかる。また、アメリカを中心にダウンタウン地区をシビックプライドの源泉とするものも見られた。一方、イギリスでは、文化施設、公共施設、文化芸術などがシビックプライドの源泉として比較的多く扱われていた。また、全体として自然環境がほとんど見られないことも特徴的である。植物が2件含まれているが、街路樹とバラといういずれも人為的に植樹・改良されたものであり、食についてもチーズという人の手の加わった食材が取り上げられている。

歴史的に、イギリスのヴィクトリア都市の精神と言われたシビックプライドが、田園趣味や郊外化などの反都市文化によって20世紀を迎える頃に急激に放棄された⁴⁾とされているように、もともとシビックプライドは都市的な概念であり、人々が地域に関わり地域に介入することに関係している⁷⁾ことから、自然環境そのものがシビックプライドの源泉として捉えられていないことの意味が理解できる。

一方で、富山で行ったアンケート結果からは、「市民として誇りに思う」のは、立山連峰、魚介類など、自然環境や食が多く挙げられた。

3. まとめ

ヴィクトリア都市のシビックプライドの源泉を代表するのは近代都市の新たな空間や社会基盤であったが、近年の文献で扱われた「シビックプライドの源泉」でもヴィクトリア都市と同様に都市環境の要素が多く見られた。公共性が高く多くの市民に共有されていることでシビックプライドの源泉となっている可能性や、「シビックプライド」自体のイメージが19世紀と結びついている可能性などもある。それらの分析考察は今後の課題とする。

参考文献

1) 伊藤香織 (2017), 都市環境はいかにシビックプライドを高めるか: 今治市を事例とした実証分析, 都市計画論文集 52(3), 1268-1275.

表1 海外文献におけるシビックプライドの源泉

要素	内容 (地域)
建築	ランドマーク建築 (米), アイコニックな建築 (欧), 文化財建築 (欧), デパート (米)
文化施設	美術館・博物館 (英) (一) (一) 劇場 (中南米)
公共施設	病院 (英) (米) 図書館 (英)
オープンスペース	公園 (英) 公園と公共空間 (米) ガーデン (英) オープンスペース (欧)
地区	ダウンタウン (米) (米) (加) 黒人地区 (米)
インフラ	地下鉄 (米) 都市下水道システム (一) 水道設備 (中東)
学校	大学 (英) (米)
文化芸術	音楽祭 (英) バフオーミングアーツフェスティバル (豪) パブリックアート (英)
産業	工業の風景 (加) ¹⁾ 最新医療 (米) ¹⁾
スポーツ	野球チーム (米) (米) アイスホッケーチーム (米) スポーツイベントやプロスポーツチーム (米) 人気スポーツ (米) 大規模スポーツイベント (一) スポーツイベント (欧)
植物	街路樹 (加) バラ (ア)
食	チーズ (欧)
その他	コミュニティキッチン (中南米) マウンド (中南米) ジオパーク計画 (中東) 壁画 (中南米)

(英) イギリス, (欧) イギリス以外のヨーロッパ, (米) アメリカ, (加) カナダ, (中南米) 中南米, (中東) 中東, (ア) アフリカ, (豪) オーストラリア, (一) 一般

2) Tom Collins (2016), Urban Civic Pride and the New Localism, Transactions of the Institute of British Geographers 41(2), 175-186.

3) John Gastil and Michael Xenos (2010). Of Attitudes and Engagement: Clarifying the Reciprocal Relationship Between Civic Attitudes and Political Participation. Journal of Communication 60(2), 318-343.

4) Tristram Hunt (2004), Building Jerusalem: The Rise and Fall of the Victorian City, Weidenfeld & Nicholson.

5) Asa Briggs (1963), Victorian Cities: Manchester, Leeds, Birmingham, Middlesbrough, Melbourne, London, University of California Press.

6) 伊藤香織 (2019), シビックプライドの源泉としての都市環境及び諸要素: 富山市中心市街地と富山地域を事例として, 都市計画論文集 54(3), 615-622.

7) Tom Collins (2017), Governing through Civic Pride: Pride and Policy in Local Government, Eleanor Jupp et al., Emotional States: Sites and spaces of affective governance, 191-203, Routledge.

Contact Point between Citizens and Urban Infrastructure From the Perspective of Civic Pride

Kaori ITO

This essay describes a notion of civic pride, which was dominant in Victorian cities in the 19th century. We also elucidate what can be a source of civic pride internationally and in Japan. Our major findings are: Investigation of the international literature reveals that built environment, culture and sport are regarded as typical sources of civic pride, while nature and food are not. On the other hand, questionnaire survey in Toyama shows that the people in Toyama City are most proud of the local nature and food.